

広 報

ふじかわ

8 月号 昭和61年 8 月 5 日発行 No. 3 0 1

町 の メ モ

昭和61年 8 月 1 日現在

人 口	16,889人
増 減	- 6人
男	8,327人
女	8,562人
世帯数	4,413世帯
面 積	31.09km ²

富士川町 総務課



暑さなんか
ふっ飛ばせ!

(第一小学校プール)

町のことしの目標
「健康な心とからだに住みよい町に」

おもな内容

- 2～3ページ 災害に備える(台風、地震)
- 4～5 町のわだい……斉藤久男氏が労働大臣表彰を受彰、西大路純子さんが最優秀賞を受彰
- 6～7 野外生活の知恵、町の昔ばなし伝説、マンガ
- 8 戸籍の窓、一里塚、お母さんの知恵袋、短歌会

昭和61年 各区のことしの目標

健康で明るいまちを (堺町)

一日に 一度は世の中の為になる良い事を
致しましょう (川坂)

小さな親切で

助け合いの輪を広げよう (新町)

災害に備える(台風・地震)

8月30日～9月5日「防災週間」 9月1日「防災の日」

豊かな自然に恵まれ、四季の美しい日本。しかし、その一方で、台風の通り道に当たり、地震が多いという「泣き所」を抱えていることも忘れてはなりません。
9月1日は「防災の日」。8月30日から9月5日までは「防災週間」です。この機会に、台風と地震に対する日ごろの備えを、もう一度見直してはいかがでしょうか。

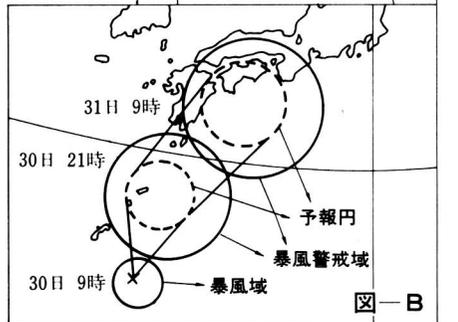
台風に備える

正しい情報をより早く

怖いものの代名詞といえば、「地震、雷、火事、おやじ」と昔から相場は決まっています。では、なぜ台風はこの中に入っていないのでしょうか。

暴風警戒域に注目しよう

今までの進路予報の表示方法(図-A)は、十二時間後、または二十四時間後に台風を中心がくると予想される地域を「予報円」として、破線で表していました。この表示方法の欠点は、予報円が暴風の吹く範囲と勘違いされやすいことでした。つまり、破線の外側なら安全——という錯覚を起こしやすかったといえます。



しい見方を覚えておきたいものです。防災の第一歩は、日ごろの備えと正しい情報の入手にあることをお忘れなく。

とは、平均風速毎秒二十五メートル以上の暴風が実際に吹いている範囲。暴風警戒域とは、予想時刻に暴風域になる恐れのある範囲です。台風を中心や暴風域が、予報円、暴風警戒域の円内に入る確率は、ともに六〇％となっております。

また、暴風域の外側には、風速十五メートル以上の強い風が吹く「強風域」が必ずあります。暴風警戒域の外側だからといって、決して気を緩めることのないように注意してください。

自分勝手な判断が被害をより多くする

ところで、これまでの表示方法では、予報円の中心に×印が付けられていました。台風の中が×印にくる可能性が一番高

いことを表したものです。しかし、この×印があると、台風を中心が必ずこの位置にくるものと誤解されやすいため、新しい表示方法では省略されました。

台風の進路や勢力は、まるで生き物のように変化します。朝の予報では、上陸しないと見通しも、午後になってから急に進路を変えて上陸——ということも無きにしもあらずです。ですから台風情報を一度だけ聞いて、自分で勝手に判断をくだすのは大変危険です。被害を大きくしないためには、次々に出される予報を注意深く聞いて、その都度判断するようにしたいものです。

地震

日ごろの備えて わが身を守ろう

大正12年の関東大地震(マグニチュード7.9)以来、日本で起きたマグニチュード7以上の地震は約四十回を数えます。地震多発国ニッポンに住むわたしたちは、常に地震災害のかけっぶちに立たされている、といっても言い過ぎではありません。地震は今のところ、いつ、どこで、どのくらいの規模で起き

るか、といった予測が一般的に困難ですから、わが身を守る唯一の手立ては、日ごろの備えにあるといえるでしょう。

二人に一人が 大地震を甘くみている!

ところが、地震に対する心構えは万全か、といえば、どうも十分ではなさそうです。総理府の世論調査(昭和60年3月)によると、「大地震の被害について考えたことがあるか」という質問に、「ある」と答えた人は全体

の五〇・八%にすぎませんでした。つまり、二人に一人は、大地震の被害を甘く見ている、といえなくもありません。

正しい防災知識と的確な防災行動力を身につけていれば、万一、大地震に見舞われても、被害は最少限度に食い止められるでしょう。

いつ襲ってくるかわからない大地震の恐怖に対し、わたしたちはどう対処したらよいか——地震の心得十か条をもう一度確認したいものです。

地震の心得十か条

1、まず、わが身を守る

地震の大きな揺れは、一分程度でおさまるといわれていますが、テーブル、机、ベッドなどの丈夫な家具の下に身をかくし、しばらく様子を見てください。その際、上から落ちてくる物に注意して、座ぶとんなどで頭を保護することも忘れずに。

2、素早く火の始末を

使用中のガス器具、電気器具、石油ストーブなどは、素早く火を消してください。地震で怖いのは、火事による二次災害です。

3、出口を確保する

地震の震動によって住宅の扉がゆがみ、開かなくなることがあります。地震が発生したら、玄関などの扉を開けて出入口を確保するように心掛けましょう。

4、火がでたらまず消火

万が一出火してしまつたら、消火器や消火用水ですぐに消し止めましょう。また、隣近所に声をかけ、みんなで協力し合つて初期消火に努めましょう。

5、あわてて戸外に飛び出さない

あわてて戸外に飛び出すと、かわらや窓ガラスなどが落ちてきて思わぬケガをすることがあ

家族の安全は「家族防災会議」から

もし、わたしたちの住んでいる町に大地震が起きたら……地震に限らず、いざというときにあわてないためにも、ふだんから防災について考えておくことが大切です。

9月1日は「防災の日」。これを機会に、家族みんなで「家族防災会議」を開き、防災について話し合いたいものです。

- 家族防災会議で話し合うこと
- 家族の役割分担
 - 離ればなれになったときの家族の連絡先と連絡方法
 - 火の始末と初期消火
 - 家具・危険物などの点検整備
 - 避難場所と避難路の確認
 - 水、食料などの備蓄と非常持出品の準備
 - 災害についての正しい知識

ります。大きな揺れは一分程度でおさまりますので、落ちついて行動するようにしましょう。

6、危険な場所に近寄らない

狭い路地や塀ぎわなどでは、かわらが落ちてきたり、プロック塀が倒れたりする危険があります。また、がけや川べりでは、地盤がゆるみ、崩れやすくなっているのに注意が必要です。

7、山崩れ、がけ崩れ

津波に注意する

出ぎわや急傾斜地域では、山崩れが起こる危険性があります。また、海岸地域では、津波の発生も考えられますので、十分に気をつけてください。

8、避難は徒歩で

自動車の使用は消火活動や救急救助活動などの妨げになりま

9、みんなで協力し合つて 応急救護を

被害が大きくなると、消防署などによる救急活動だけでは、負傷者の手当てが間に合わないこともあります。軽いケガなどの応救処置は、みんなで協力し合つてやりましょう。

10、正しい情報をつかみ 余震を恐れるな

被害が大きく、混乱しているときは、誤った情報が流れやすいものです。公的機関の広報や指示に従って、冷静に行動するよう努めましょう。



昨年の防災訓練風景

斉藤久男氏が 労働大臣表彰を受彰



斉藤久男氏
(65)
(東町一)

の労働環境の安全整備指導や産業安全水準の向上に大きな役割をはたされ、このたびの受彰となりました。

7月1日から一週間実施された全国安全週間にちなんで、昭和35年から二十六年間にわたり労働大臣から静岡県労働基準局防災防止指導員に任命されている斉藤久男氏が、7月1日県内でただ一人労働大臣表彰(功績章)を受彰されました。

同氏は長年にわたり防止指導員や清水鉄工機械協同組合安全衛生委員長などとして、各会社

国土建設週間作文の部で 西大路純子さんが最優秀賞を受彰



西大路純子さん
(15)
(相生町)

三年生の西大路純子さんの作文「大切なもの」が、最優秀賞(県知事賞)に選ばれました。

最優秀賞に選ばれた西大路さんは「授業中先生から聞きましたが、思いがけないことで信じられなく、今でもまだ実感として喜びがわいてきませんが、大変うれしく思います。この作文は、祖父から聞いた富士川の話

しなどを中心として書きました。その中では、物を作る人の心は昔も今も変わりなく、普段建造物の外観ばかり見ているのでは

史跡探訪受講生が 妙見古墳群発掘調査現場で勉強会を

町婦人会文化部(勝呂恵子部長)が郷土学習の一環として行っている「史跡探訪」の受講生約四十人が、7月25日上町区



調査員(中央)の説明を聞く受講生

今回訪ずれた遺跡は、町教育委員会が宅地造成に先立ち予備調査を実施した結果、八世紀前半の古墳が七基発見されたため実施しているものです。

稲垣甲子男調査員から説明を受けた受講生は「まのあたりに千数百年前の古墳を見て、ちみちな構造や古墳を造った人たちの労力に感心しました。そして、数多くの町の歴史の話も聞き大変勉強になりました」と感想を話していました。

県子ども自転車大会で 二小チーム惜しくも入賞をいっす

「第十九回交通安全こども自転車静岡県大会」が、7月24日静岡市の中央体育館で行われました。

当日出場した選手(敬称略)
庵原郡の代表チームとして出場した町立第二小学校チームは、
◇高岡 孝 ◇小川 友博
◇押川 和史 ◇宇佐美康徳

第6回松野児童館まつりが盛大に



まつりの風景

7月20日松野児童館(望月富子館長)で、「第六回児童館まつり」が行われ、延二千人の親子などが訪ずれ、大変にぎわいました。

このまつりは、子どもたちの一年間にわたる児童館活動や児童館を拠点として活動しているお母さんクラブ親子絵画クラブ、卓球同好会、子どもたちの手づくりクラブ、子ども会が、手づくりのマスコット人形などのバザーややきそば、おでんなどを出店しました。

両会場とも、朝早くから子ども連れの親子などでいっぱい、参加者たちは楽しい一日をすごしました。

町老人クラブ連合会が 表彰される

6月30日静岡市の県総合社会福祉会館で行われた「県内老人クラブ連合会会長研修会」の席上、町老人クラブ連合会(川村清会長・会員一千二百七十人)が、県老人クラブ連合会会長表彰を受彰しました。

このたびの受彰は、地区老人クラブ単位などで行っている神社や駅前などでの清掃活動や共立蒲原総合病院への奉仕活動が認められたもので、受彰にあたり川村会長さんは「老人として、社会にお役に立てることを当然やってきましたつもりです。長年続けてきた奉仕活動が認められたことは大変光栄です。今後も引き続きみなさんのお役に立てるよう、会員が協力し合い奉仕活動を続けていきます」と話していました。

町の

わだいの

消防団査閲大会で 惜しくも入賞をいっす

7月20日清水市の清見寺グラウンドで、静岡県消防協会清庵支部消防操法並びに訓練礼式査閲大会が行なわれました。

この大会は、清水市と庵原郡の消防団員の消防技術の向上や士気の高揚を図り、消防活動の進歩充実に寄与することなどを目的として行われ、ポンプ車操法の部六隊、小型ポンプ操法の部七隊、訓練礼式の部四隊が日ごろの訓練ぶりを競いあいました。

当町の消防団(久保田敏男団長・団員百二十八人)からは、ポンプ車操法の部に第二分団(斉藤秀夫分団長)が、また、小型ポンプ操法の部には第一分団(五十嵐順信分団長)が出場し、練習成果を発揮しましたが、惜しくも、入賞をいっすしました。



練習ぶりを披露する団員

東町・日の出町と相生町チームが 決勝戦へ

町スポーツ祭の一環として、7月20日河川敷スポーツ広場で、「体協創立三十周年記念各区対抗ソフトボール大会」が、十三チームが出場し、トーナメント方式で行われました。

この大会は、スポーツの普及を図りながら健康増進や親睦を深めることを目的として行われ、出場したチームは、それぞれの試合で熱戦をくりひろげました。

当日は準決勝までの試合が行われ、決勝に勝ち進んだ東町・日の出町チームと相生町チームの決勝戦は、8月4日ナイターで行われます。



熱戦を展開中

親子で挑戦!

野外生活の知恵 サバイバル入門

進む道がわからなくなったら

- ①「おかしいな」と思ったら、むやみに進まないで小休止して検討してみましょう。
- ②迷ったことに気づいても、あわてずに。まず、現在地がどこなのか、地図や景色や角度でしらべてみましょう。
- ③確かな所まで引き返して、もう一度よくしらべてみる。
- ④途中で曲がるべき道を見落としていないか、注意してみよう。
- ⑤見通しのよい場所へ登って、眺めてみる。
- ⑥進む道に自信がなければ、はっきりした所までもどったほうがいい。

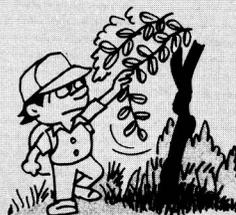
道に迷ったら

車でコースが切れていたら



地図ののっていない新しい車道ができて、登山コースが中断されることがよくあります。そんな時は、車道の右手と左手の山側をよくしらべてみると、登り口が見つかります。

道を探しに行くときの注意



進む道に自信のないときは、偵察に行ってみます。いつでも引き返せるように、眼の高さの小枝を折って目印にして進めば、安心です。この枝折りが、シオリ(葉・道しるべ)の語源です。



▼社会教育あれこれ▲

「へたでもよかった」

市民スポーツが盛んだ。日曜日ともなれば、どこの体育施設も色とりどりのスポーツウェアに身をつつんだお父さん、お母さんたちでいっぱいである。この服装のこともいささか気になるところであるが、そこに参加する人達の思いはどうかというと考えさせられてしまう。

ある区で行われたソフトボール大会に出場したお父さんの試合後のことばが「へたでもよかった」であった。いいことばである。けっして負け惜しみではなく、実にさわやかに話してくれたのである。なにしろ久しぶりであった。バットの重さすら忘れるほどであるから、簡単にはボールも当たってくれるはずがないし、時々やってくるボールは素直にクラブに入ってくれようともしない。まして、日頃から車生活に馴れてしまった足には墨間はとて長く感じたのである。

「スポーツ」の語源はラテン語にあり「楽しむ」が本来の意味である。市民スポーツが生涯スポーツになるために「へたでもよかった」人達のためのものでありたいと思うのである。

そうした自分の姿を自身では、やや気恥しい思いの中でプレーしたのだが、チームメイトの自分への思いやりがうれしかった。体のことを気遣い、スイングの仕方、クラブの使い方も教えてくれ、すこしも異和感がなかったというのである。だから「へたでもよかった」のである。なまじ、腕に多少なりとも自信らしきものがあるとそれがかえってじやまになることを知ったというのである。

町の昔ばなし伝説(十二) 庚申信仰(その二) 長泉寺本尊の由来

岩淵相生町にある庚申堂は、もと岩淵山長泉寺というお寺で、岩淵で初めて渡船名主をした斎藤縫左衛門宗鑑が開基(寺を創立した人)でした。そして、当時の住職は、齋安和尚といつて、修行を積んだ村人に慕われた方でした。

ある晩のことです。齋安和尚が寝ておりますと、夢枕に顔貌が恐しい仏様が現われ、「私は、その昔、帝釈天(仏法を守護する天上の王といわれる仏)の命令をうけて、この土地の人たちに庚申を祭らせて、その広大な利益を得させようとしてきたのであるが、それがどういことだ。私を天井裏に置いておくと。帝釈天も怖れず、私の願もかなわず、またお前も村人たちに仏の功德をも知らせないとは」と大いに怒って手を振り上げて和尚を打とうとしました。

「私が子どもの時代は参詣して、各人がローソクを立て、そのローソクが全部とぼるまで立っており、色々な話をしたり、また、町内に病人があつたり、盗難があつたり、色々ななやみごころがりますと、庚申さんにお願をかけた、お願がかなった時はお礼詣しなものです」

8月の交通事故

人身事故	4件(5)	合計	8件(12)
物損事故	4件(7)		
富士川身延線	5件(6)		
国道一号线	0件(4)		
町道	2件(1)		
県道	1件(1)		
その他	0件(0)		

()は昨年



家族で話し合おう 図解交通安全

道路が渋滞していても、バイクは小さいので車の左側をスイスイと進めます。実は、その便利さに落とし穴があるのです。特に交差点には危険がひそんでいます。

交差点付近が渋滞しているとき、車は交差点を通過できないので、対向車線の右折車を先に通そうと「どうぞ」と合図し、右折車は「ありがとう」の合図を出して曲がることなくよくあります。しかし、「どうぞ」の合図を送った車の横からバイクがスイスイと出てしまったら……。交差点は、このようないわゆる「ありがとう事故」の危険がひそんでいるのです。(図参照)

- ①交差点の手前では十分スピードを落とす。
- ②となりを走っている車の動きに十分注意する。特に急に速度を落とした時は、前方に何かがあると思え。
- ③右折車の有無は必ず

星の子



「私」が子どもの時代は参詣して、各人がローソクを立て、そのローソクが全部とぼるまで立っており、色々な話をしたり、また、町内に病人があつたり、盗難があつたり、色々ななやみごころがりますと、庚申さんにお願をかけた、お願がかなった時はお礼詣しなものです」

戸籍の窓

S 61・6・15〜7・14届出分
(敬称略)

おめでた

区名 氏名 保護者 続柄

相生町 長谷川友子 泰 二女

上町 笠井香奈子 康光 長女

旭町 望月由佳里 正司 二女

宮町 在原理紗 三男 二女

幸町 中嶋彩香 昌一 長女

幸町 渡邊祐伍 健児 長男

南町二 影島佑哉 寿久 長男

八幡町 二又川未帆 克己 長女

八幡町 増田亜希子 明己 長女

富士松野 佐野和也 敏明 長男

清水町 小池祐輔 伸弘 長男

区名 氏名 年齢

木島 佐藤とめ 七七

小山 常盤タミ 八三

堺町 須藤重二郎 七〇

四十九町 佐野忠太郎 八六

宮町 古川喜代松 八五

東町一 遠藤よう 九〇

南町二 渡邊定雄 六七

南町二 井出兼雄 八一

八幡町 稲葉劔作 八三

八幡町 望月せま 八五

かなしみ

お母さんの知恵袋

軍手ぞうきん

狭い所を掃除したいとき軍手を使うと便利です。軍手を両手にはめたまま、水や洗剤液につけ絞って使うと、指が自由に動くので、アルミサシの溝やタンスの取っ手など、ぞうきんではふきにくい部分もきれいになります。プラインドの手入れも軍手がなによりです。素手では指を切るから、一枚くくふくときには軍手ぞうきんで。別のぞうきんでふく場合も軍手をはめていると安全です。外周りの掃除や草取りなどでも手の荒れが少なくなるので、二・三組の軍手を掃除道具に加えると重宝します。

食器棚の衣替え

季節によって使わない食器は邪魔にならないところにしまひ、ガラス器など夏によく使う食器は出しやすいところへ。

重なったコップ

ガラスやプラスチックのコップが重なってとれないときは、そのままぬるま湯につけ、内側のコップに冷たい水を入れると、内側と外側の膨張率が異なつてすきまができ、簡単にとれます。(婦人会)

一里塚



長梅雨もようやく終りをづけ夏らしくなった日曜日、めずらしく息子のサッカーの練習試合ということで、一日つきあうことができた。

日頃、仕事にかこつけて遊んでやることも少なく、ましてや同行することは皆無に等しい。めずらしい出来事で子どもの方が戸惑っている様子であった。親として子どもについては総てわかっているようで、わかっている事が多い。

いつもながら学期末になると学校から通信簿がくる。学力面

の評価については本人の力量評価であり、言及の余地はないが、基礎的基本的な生活行動の表面を見て、日頃の父親として、また、職務から、その責務について反省させられる面が多く、はずかしい次第である。

現在の子どもは、種々の多様化した外的状況に加えて、大人には理解できない苦悩の複雑化時代を生きているのである。

昨今、小中学生の間に自殺が多発している。その原因を、いじめとか、過大な進学競争に安易に結び付ける傾向があるが、しかし、親や教師の思いが及ばないところに原因が潜んでいるのではないだろうか。

私は気まぐれな一日の行動を因として、親として子どもに対

町への寄付金

(K・S)

S 61・5・30〜7・4

二百万円 文化財保護事業へ (株) スルガ

三十万円 社会福祉事業へ

井出 稔 (南町二)

社会福祉事業寄付金(敬称略)

S 61・6・26〜7・7

六万円 明るい社会づくり運動静岡県協議会富士川支部

十万円 常盤理一 (小山)

富士川短歌会

7月詠草(天野寛選)

南町一 上野みつ子
五部落の神輿齋庭を出づる時見下ろす村に花火轟く

富士見町 佐野いそ江

よく泣く子又も泣くかと耳すまし豎笛の音にて気を吐きにけり

舟山町 望月八代

行き会える里人負ひし籠を置きて語りて昏るる落城の秘話

坂下 川口久代

むし暑くあけし窓よりただよいくる魚やく臭いこの夜更に

坂下 藤沼 満

佐太郎の歌碑に足とめわが友と訣別の文字をよむ大樹寺の墓地

南町一 佐野節子

母に抱かれ笑みいる我は幼くて色変りたる大正の写真

四十九町 村山越子

打ち終えし碁盤を前にのびをせし父の仰向けに倒れしという

宮町 若月幸江

梅雨明けを待ちつつ予報を聞き居れば月は昇りて窓に光れり

相生町 望月侑子

三年前母の日にと娘のくれし水蓮三つが咲くを見いりぬ

本通一 望月 録

真白にどくだみの咲く露地をゆくやや青くさき風に追われつ